

2025年3月期 中間期決算説明会

株式会社J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422



本日の報告事項

- 1、2025年3月期中間期決算及び
2025年3月期業績予想
- 2、成長に向けた取り組みについて
- 3、サステナビリティの取り組みについて

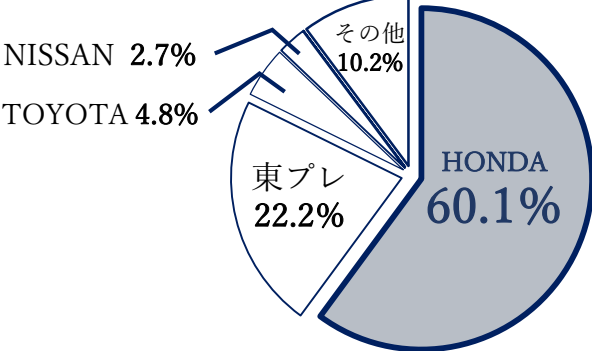
本日の報告事項

**1、2025年3月期中間期決算及び
2025年3月期業績予想**

2、成長に向けた取り組みについて

3、サステナビリティの取り組みについて

【当社主要客先比率】 2023年度実績



HONDA

本田技研工業(日本)
武蔵精密工業
ブルーエナジー
Honda Automobile (Thailand)
Thai Honda
広汽本田 (中国)
東風本田 (中国)

TOYOTA

アイシン
トヨタ車体
フタバ産業
岐阜車体工業

東プレ

HONDA
TOYOTA
日産

その他

Gestamp(日本)
Suzuki Motor (Thailand)
DAICEL (Thailand)
CATL(中国)
小鹏汽車 (中国)
Valeo(中国)
Webasto(中国)
吉利汽車 (中国)

【当社拠点ホンダ 生産台数】

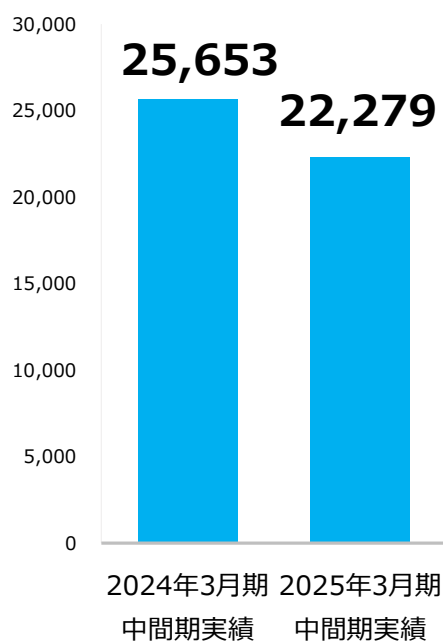
地域		2023年度 上期実績 (千台)	2024年度 上期実績 (千台)	前期比	状況
日本		315	300	▲4.8%	輸出部品減により減少
中国	広州	351	182	▲48.1%	日系メーカーの中国市場NEVシフトに出遅れにより減少
	武漢	268	231	▲13.8%	
タイ	四輪	71	61	▲14.1%	タイ国内生産台数及び汎用エンジンの減産により減少
	汎用エンジン	511	299	▲41.5%	
合計 (汎用エンジン除く)		1,005	774	▲23.0%	

中国拠点をはじめ、各拠点ともに生産減少

(百万円)

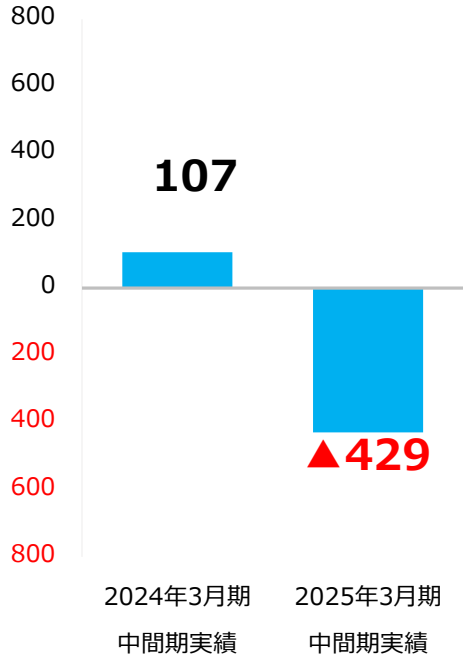
売上高

前年同期比▲13.2%



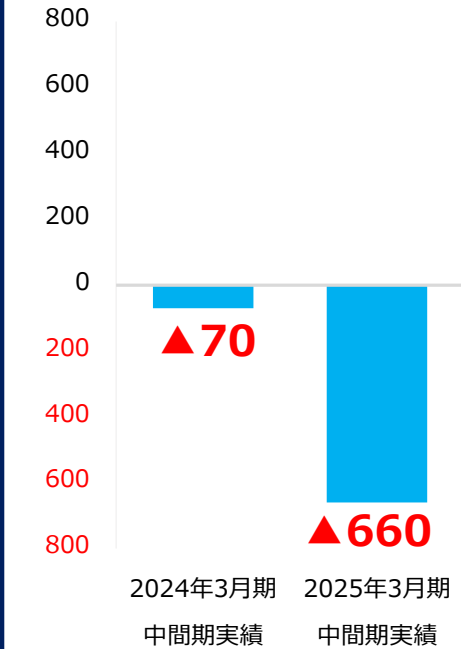
営業利益

前年同期比 —



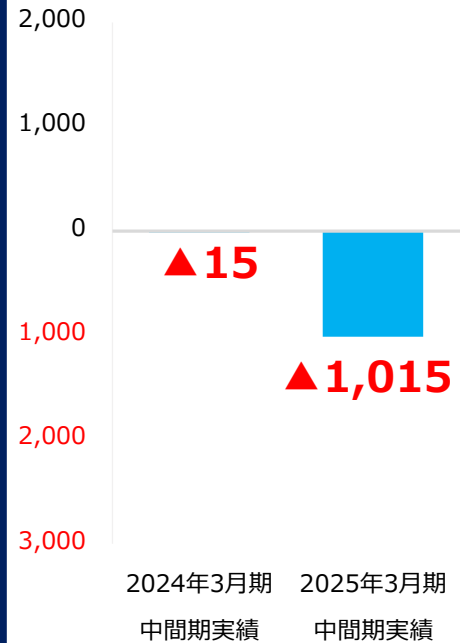
経常利益

前年同期比 —



親会社株主に帰属する 中間純利益

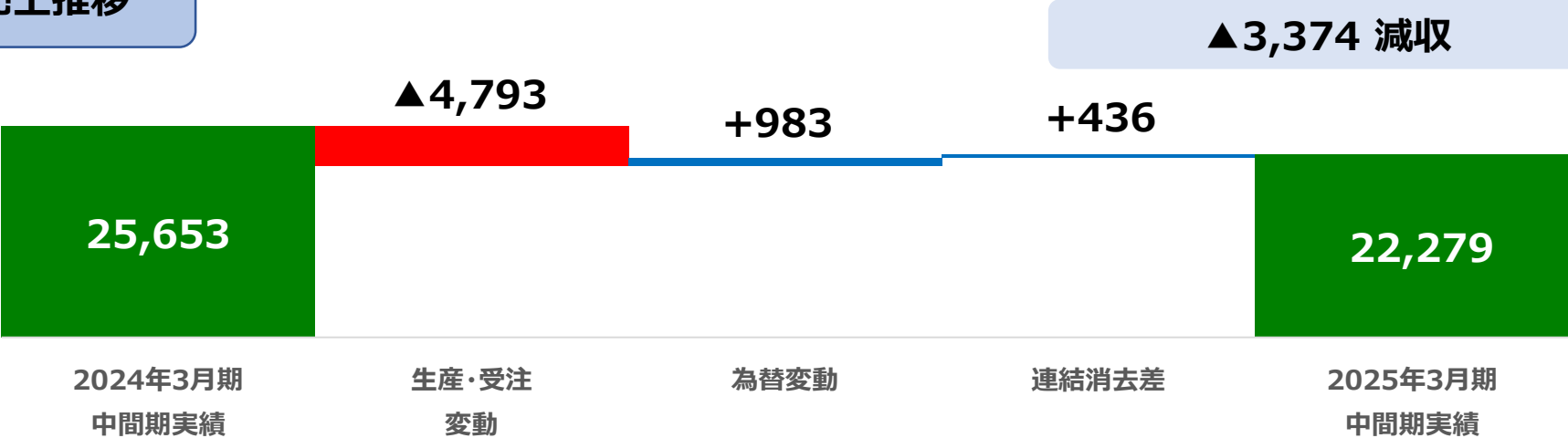
前年同期比 —



為替レート	2024年3月期中間期 (円)	2025年3月期中間期 (円)	増減 (円)	増減率 (%)
タイバーツ	3.94	4.22	+0.28	+7.1%
人民元	19.47	21.06	+1.59	+8.2%

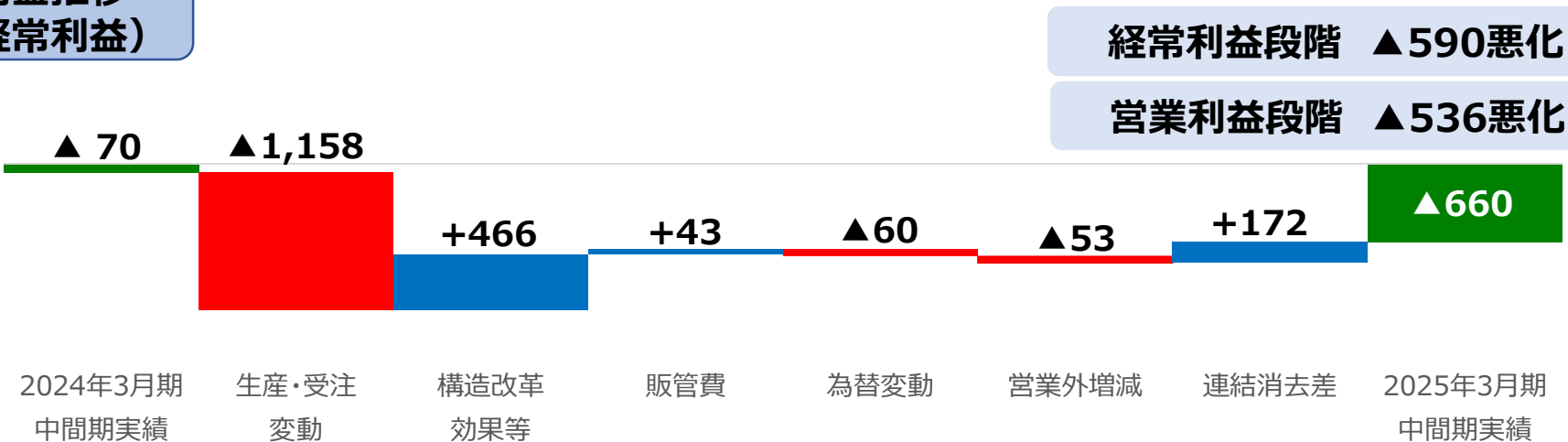
売上推移

(百万円)



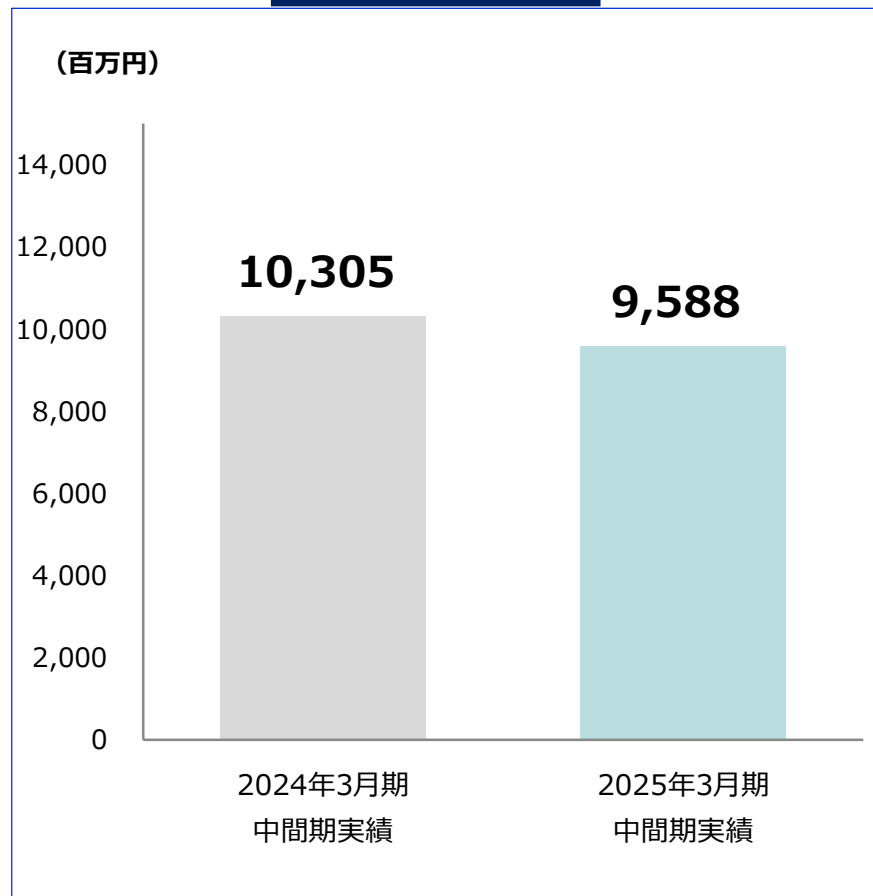
利益推移 (経常利益)

(百万円)

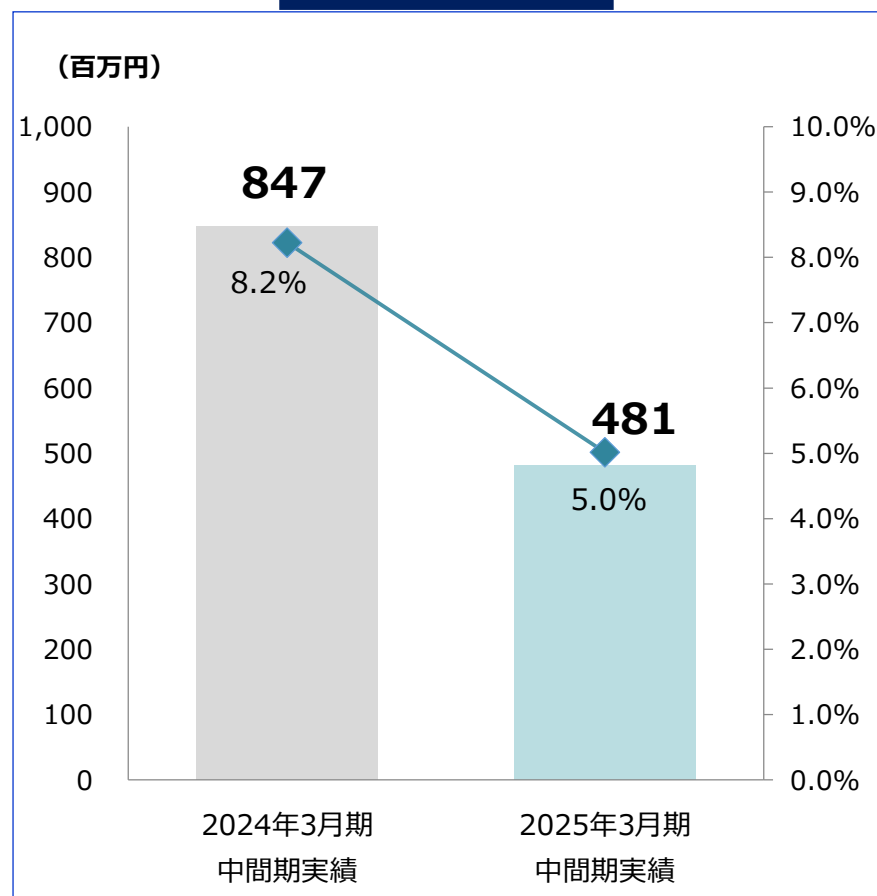


売上：各拠点の主要客先の生産減少により、減収
利益：減産影響により大幅な減益となったものの、要員及び生産能力適正化・生産工場集約等の前期から継続して推進している構造改革の取組みが効果に繋がっている

売上高



経常利益

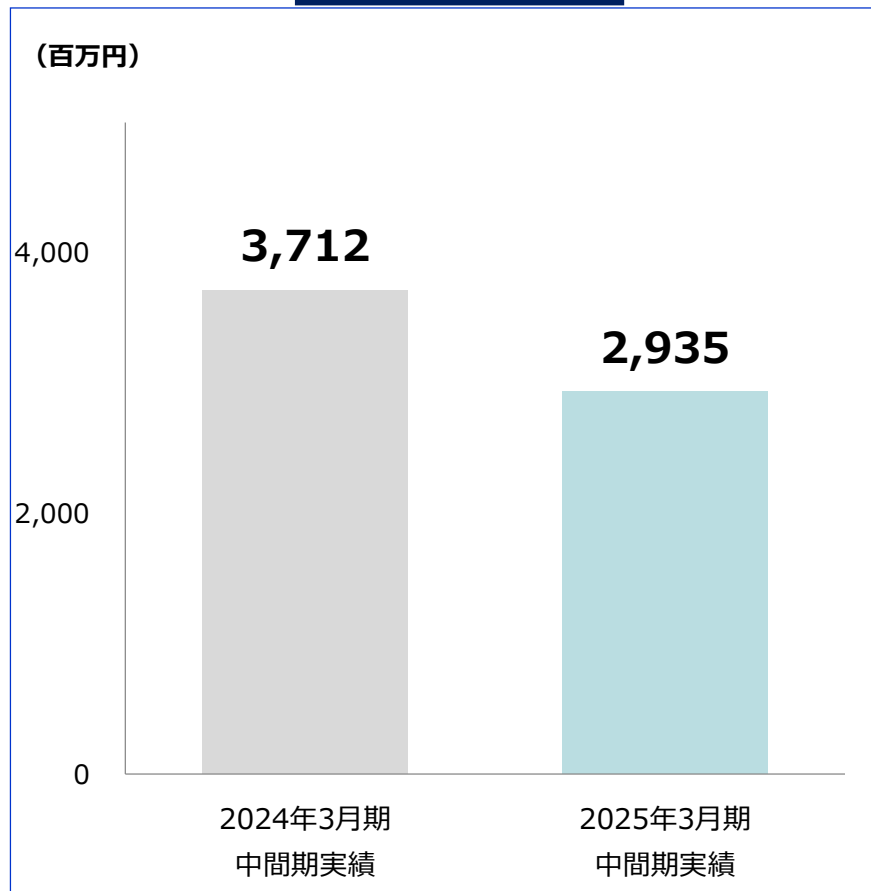


【増減要因】

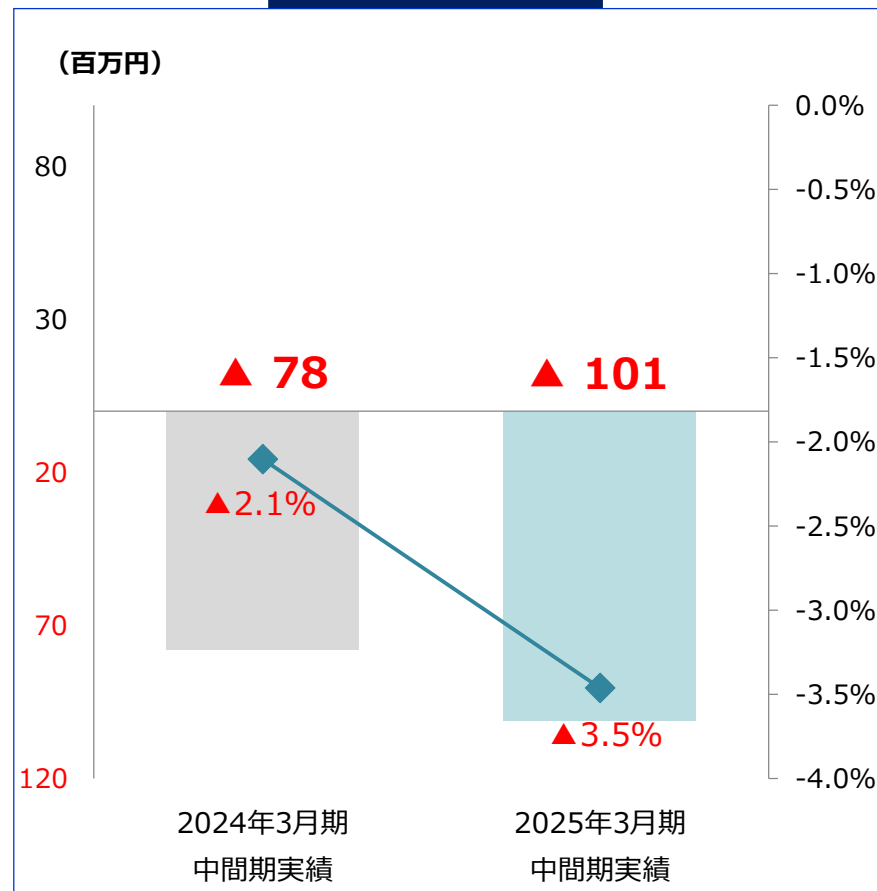
売上高
経常利益

売上高：主要客先向け自動車部品の生産減少に加え、金型設備等の販売の減少により、減収
利益：生産減少及び生産車種構成変化の影響に加え、岡山新工場準備費用の増加等により減益
なお、電動化領域の受注拡大や販管領域の固定費削減及び積載効率向上による輸送費及び生産経費の削減等の収益体質の強化に向けて着実に推進

売上高



経常利益

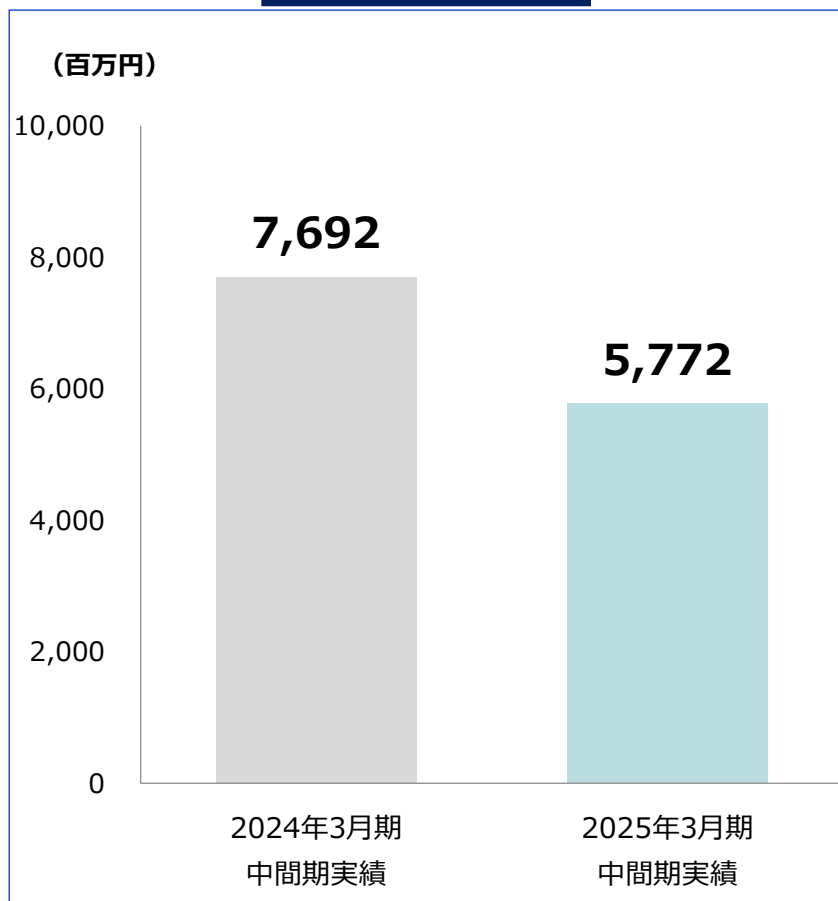


【増減要因】

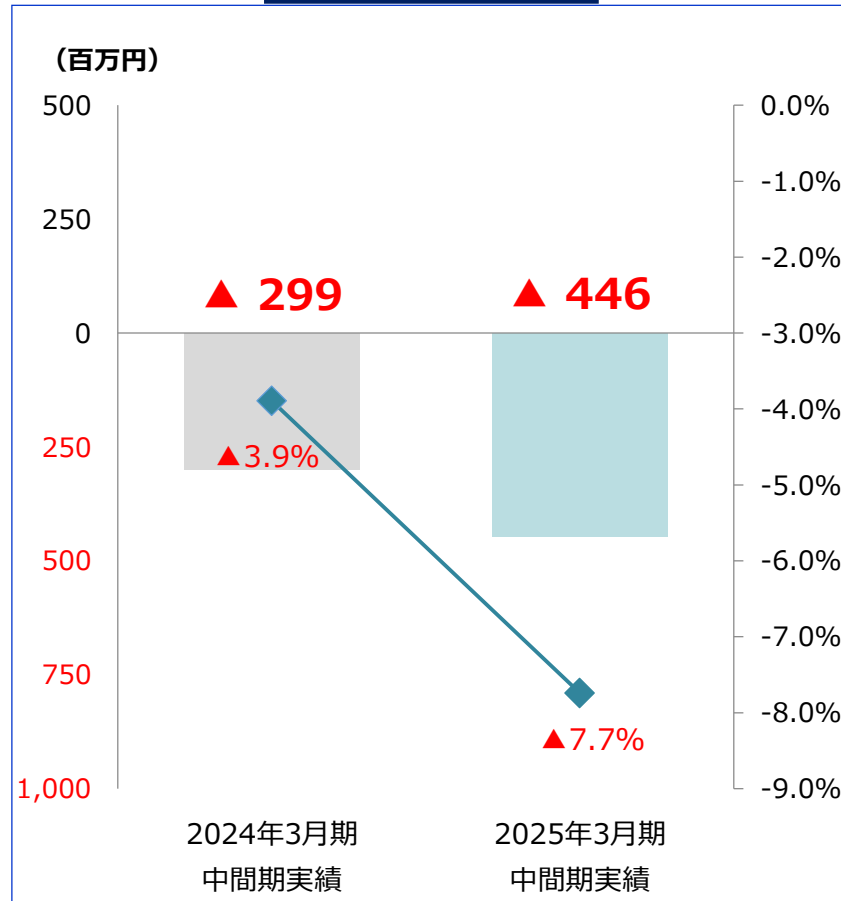
売上高
経常利益

売上高：主要客先の国内向け自動車部品及び汎用エンジン部品等が減産したこと等により、減収
利益：主要客先の減産影響により、減益。なお、経費及び輸送費等の原価低減活動の推進に加え、前期から継続して取り組んでいる要員適正化及び金型事業の縮小等の構造改革により、利益体質改善が効果に繋がっている

売上高



経常利益



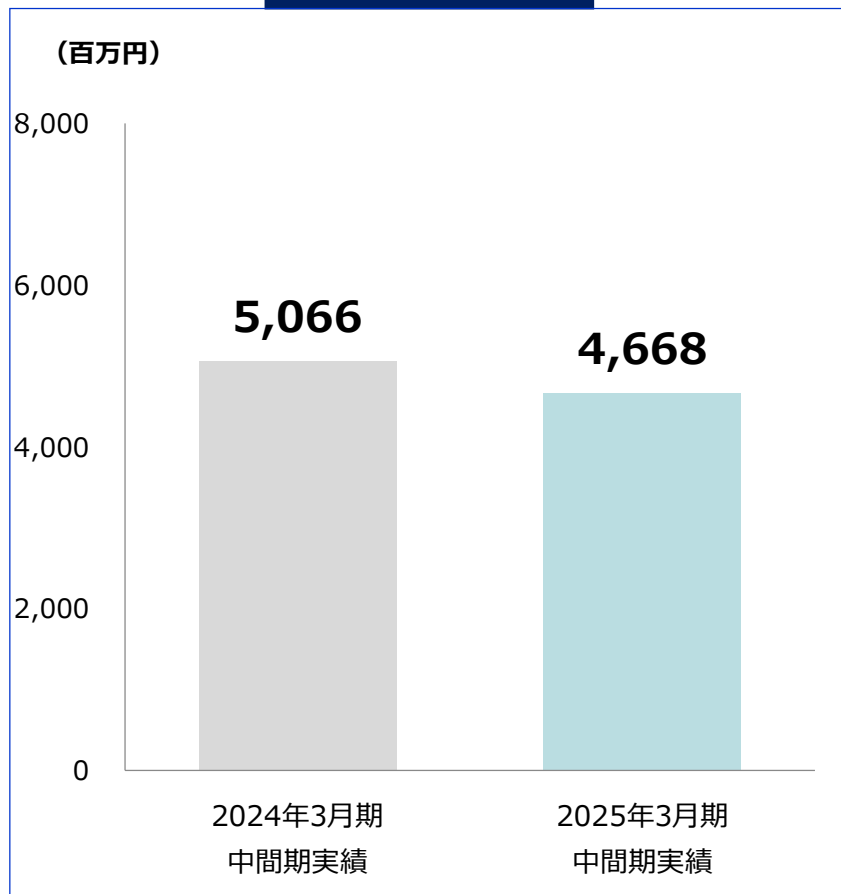
【増減要因】

売上高
経常利益

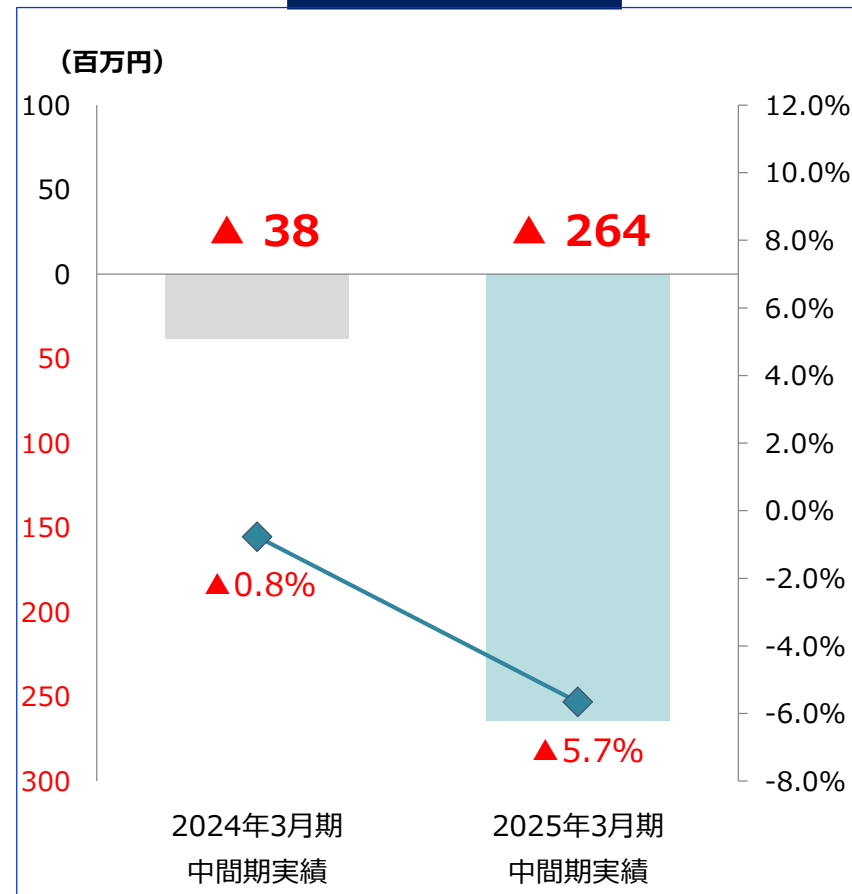
売上高：主要客先の大幅な減産影響等により、減収

利益：主要客先の減産影響により、減益。なお、前期から継続して取り組んでいる生産工場集約及び生産能力適正化等の構造改革により、固定・変動各領域費用の削減等を推進し、利益体質改善が効果に繋がっている

売上高



経常利益

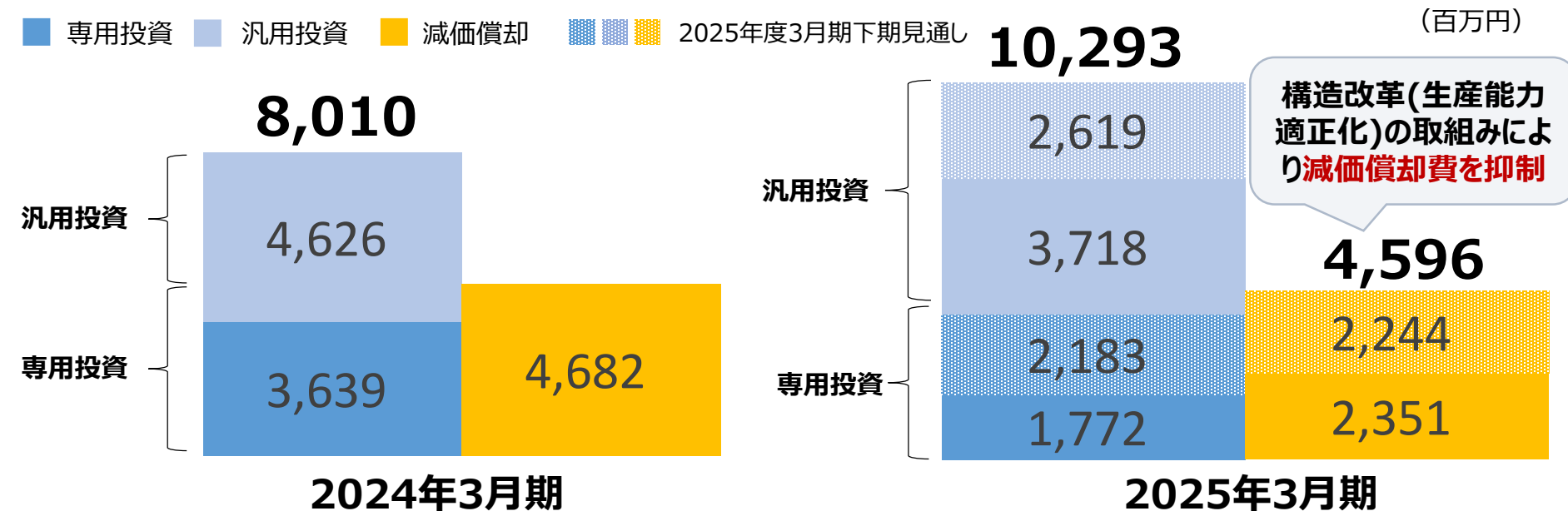


【増減要因】

売上高
経常利益

売上高：主要客先の大幅な減産影響により、減収

利益：主要客先の減産影響により減益。なお、経費及び輸送費等の原価低減活動に加え、今期から開始した構造改革により要員適正化及び生産能力適正化等の取組みを推進



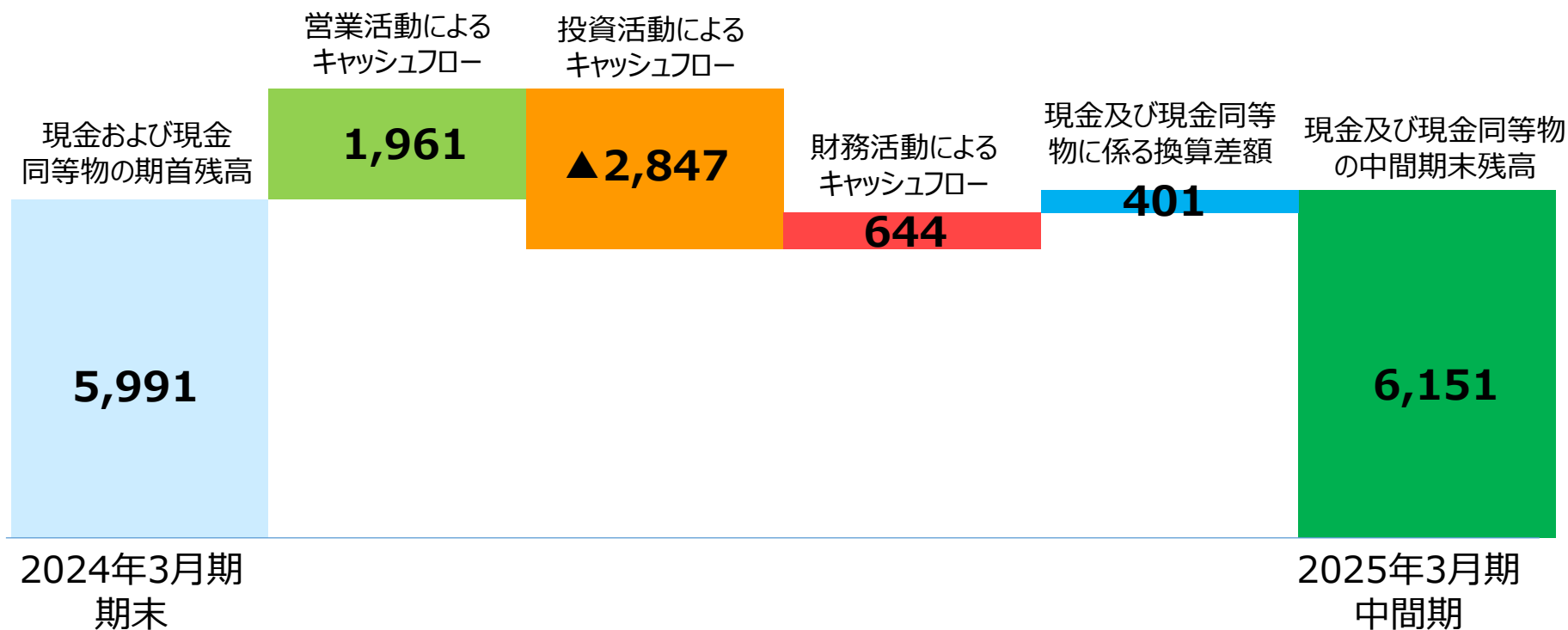
為替レート	タイバーツ : 4.04	タイバーツ : 4.22
	人民元 : 19.80	人民元 : 21.06

2025年3月期上期の主な投資			2025年3月期下期の主な投資		
J-MAX	汎用投資	岡山新工場関連		岡山新工場関連	
広州	汎用投資	新プレスライン		福建新工場関連	
		福建新工場関連			
全拠点共通	専用投資	新型車種金型		新型車種金型	

岡山新工場（J-MAX）、福建新工場関係（広州）等
中長期的な成長への投資を中心に推進

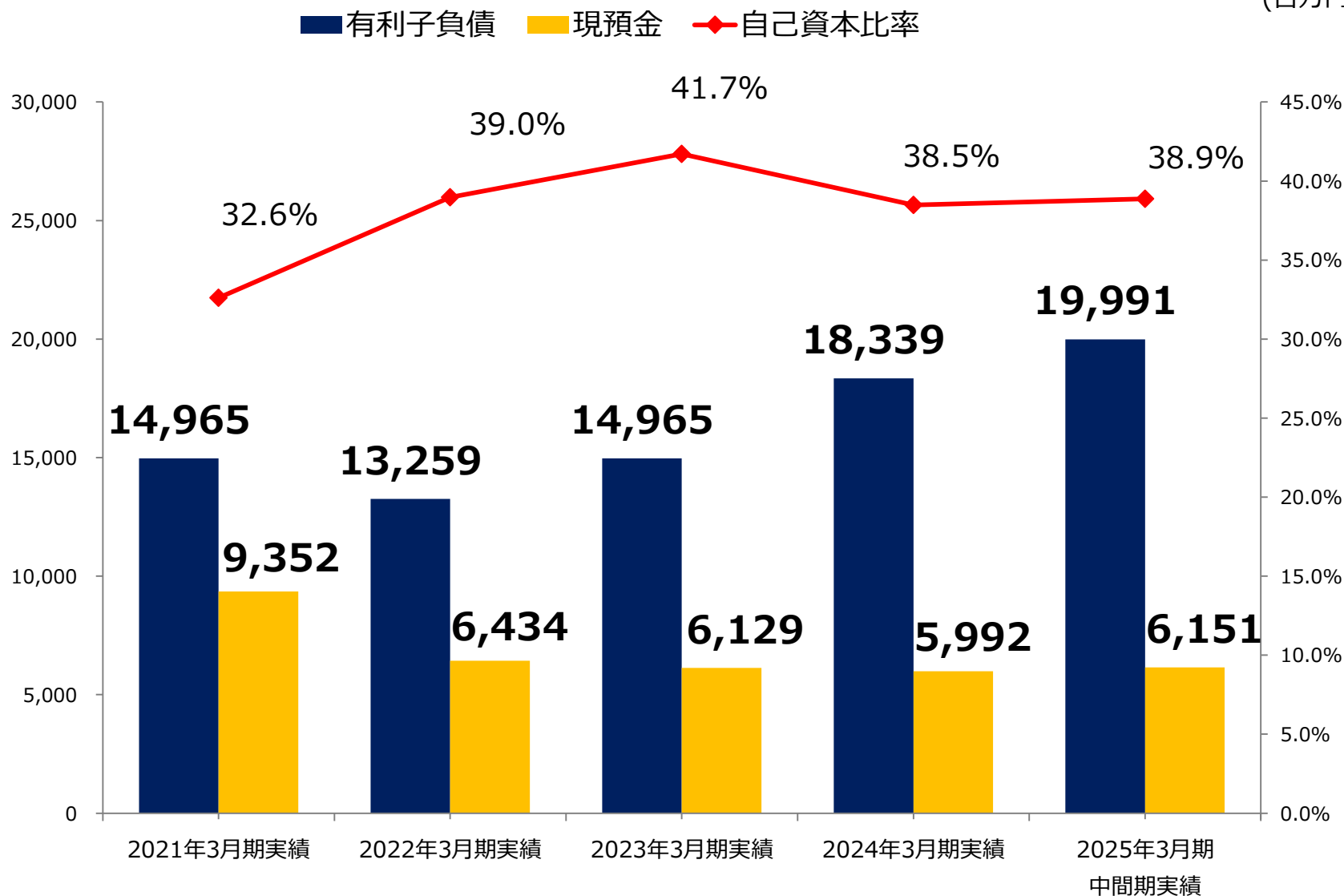
フリーキャッシュフローは▲885百万円

(百万円)



主要客先の減産対応としての事業構造改革及び成長投資実施等により
フリーキャッシュフローは▲885百万円

(百万円)



岡山新工場及び福建新工場への成長投資に伴い有利子負債増加
自己資本比率は、前期から同水準で推移

通期業績予想の修正理由

【単位：百万円】

中国拠点における主要客先減産への対応として、更なる構造改革の推進に伴う関連費用を特別損失に計上

	2024年3月期 実績	2025年3月期 前回予想 (8/7)	2025年3月期 修正後予想	増減
売上高	54,347	46,000	46,000	0
営業利益	1,041	50	50	0
営業利益率(%)	(1.9%)	(0.1%)	(0.1%)	
経常利益	731	△400	△400	0
経常利益率(%)	(1.3%)	(-)	(-)	
当期純利益	△1,026	△1,600	△2,400	▲800
当期純利益率(%)	(-)	(-)	(-)	
一株利益(円)	△89.45	△139.72	△209.43	

	2025年3月期（円）
為替レート	タイバーツ：4.2、人民元：21.00

配当の推移

期末 ■
中間 ■

《事業構造改革期間》
2016年3月期～2018年3月期
経営悪化に伴い無配

東証上場を記念し配当を上乗せ
(普通配当4円 + 記念配当2円)



実績

予定

確定

連結業績・将来の業績、資金需要、内部留保及び財務体質等の状況を総合的に勘案し、中間配当は2円とさせていただきます

本日の報告事項

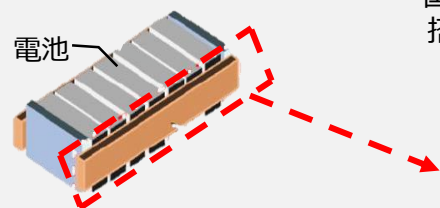
1、2025年3月期中間期決算及び
2025年3月期業績予想

2、成長に向けた取り組みについて

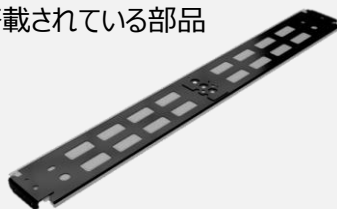
3、サステナビリティの取り組みについて

バッテリーモジュール拘束体フレーム量産開始

『バッテリーモジュール』
複数の電池を組み合わせて
必要な容量や電圧を得るた
めの製品



受注部品
『拘束体フレーム』
・バッテリーモジュールの構成部品
・国内の電気自動車にほぼ100%
搭載されている部品

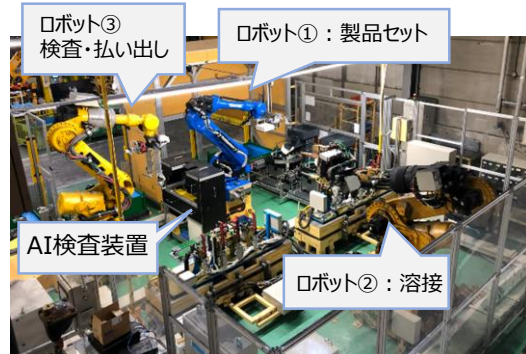


車 種 : 三菱自動車『アウトランダー』
発 売 日 : 2024年10月31日



生産では、**無人化体制 & 完全自社開発のAI検査装置導入**

生産ライン写真



生産工程

製品セット

溶接

検査

払い出し

全ての生産工程を無人化

ロボットやカメラを駆使し、無人化体制で生産実現
→ 人員及び工数等の原価低減に貢献

AI検査装置開発

『検査装置外観』



長年のノウハウを基に
高度な生産技術の開発に挑戦

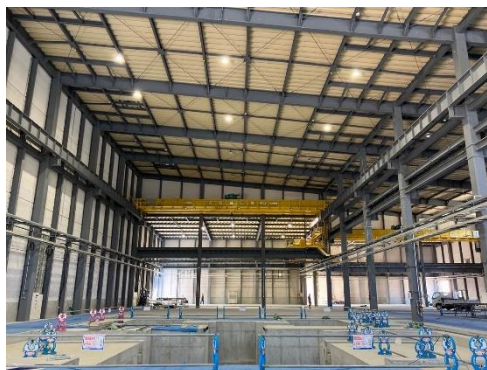
- ・AIモデルの構築から、設備への実装等の
開発工程全てを自社内で完結
- ・溶接打点位置、ひび割れ等の打点欠陥等、
溶接時に発生する様々な不具合を検出可能

電動化事業の受注を拡大
人作業のロボット化に加え、検査装置のAI化により無人化ラインを実現

工事状況



工場棟の外装、外壁および排水、受電の整備



内装の整備



天井クレーンおよびコンベア据付

稼働に向けて

人員

- 30名の採用を実施
上石津工場での実務教育を事前実施

- ◆ 新卒・中途採用推進
- ◆ 工場見学受け入れ
- ◆ 面接・採用試験の実施

設備

- 800t及び3000tプレス搬入・・・24年末
- 上石津工場からの生産移管

- ◆ 整地作業と並行で搬入実施
- ◆ 12月より順次移管

2025年2月竣工 4月生産開始に向けて推進中

目的

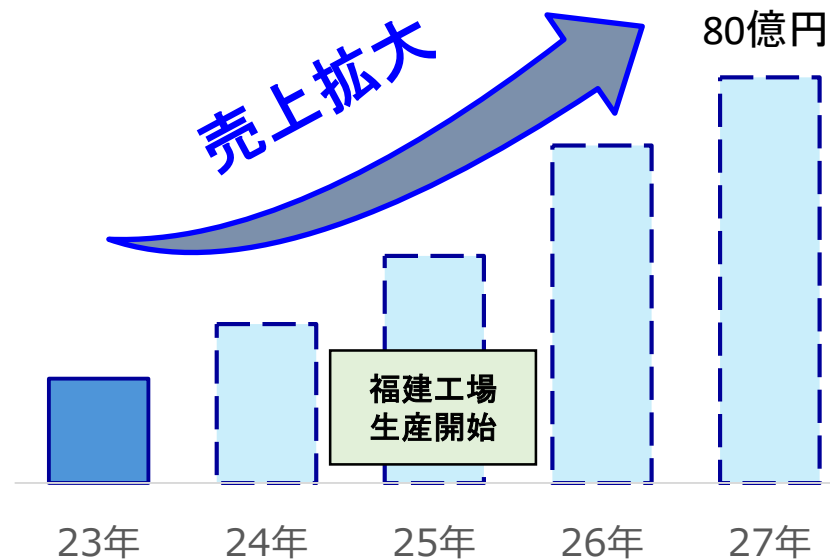
電動化を加速している中国自動車市場において、CATLを中心に電動化事業の拡大を目指すため、CATL本社の近くに福建丸順を設立し、更なる電動化部品のビジネスチャンス拡大を図る

福建丸順の工場建設



CATL向け売上

福建丸順工場は25年1月生産開始予定



CATL向けは順調に受注獲得
福建丸順工場はハイペースで建設を推進

本日の報告事項

- 1、2025年3月期中間期決算及び
2025年3月期業績予想
- 2、成長に向けた取り組みについて
- 3、サステナビリティの取り組みについて

ESG	重要課題 (マテリアリティ)	K P I	30年度 目標	2025年3月期 中間実績	2025年3月期中間の主な取り組み
E	①CO2排出量の削減	●CO2排出量削減率	50.0%	13.0%	■ 2030年までのロードマップの見直し(投資見直し反映) ■ 省エネ施策の実施(エアコン自動制御システムの導入等) ■ ISO運用管理(NC旋盤出来高UP、非稼働時の設備電源オフ等)
E	②廃棄物の削減& 資源の有効活用	●廃棄物排出量の削減率	50.0%	19.1%	■ 廃ポリ容器・パレットの再資源化、ストレッチフィルムの薄膜化
		●仕損費比率の削減率	10.0%	21.4%	■ 破壊費・仕損費削減の各課実行計画の推進
S	③当社技術を活用した 技術革新	●電動化関係部品売上拡大	+30.0%	+13.6%	■ スーパーハイテン技術の開発 ■ EVバッテリー関連部品の開発、受注拡大の活動
S	④ダイバーシティ	●女性管理職者数	5名	0名	
		●外国人社員比率	3.0%	2.2%	■ たくみアカデミー留学生向け会社説明会/インターンシップ受入
		●障がい者雇用率	3.0%	2.6%	■ 障がい者の定着支援の定期実施
S	⑤人材教育・育成	●プロフェッショナル人材管理職 (専門職昇格者)	5名	1名	■ 管理職・監督職育成プログラムの推進 ■ 階層別教育の構築・運用、SDGsの社内啓発・教育 ■ 大学との産学連携、学校への出張授業、工場見学の受入
S	⑥働き方改革	●過重労働者率 ●ワークライフバランス推進	0%	0.2%	■ 残業時間/有休取得のモニタリング・呼び掛け ■ 内部統制システムの整備、運用状況の報告
S	⑦労働安全衛生	●健康経営優良法人認定	取得・認定	認定	■ 特定保健指導、パフォーマンスアップセミナーの開催 ■ 福利厚生サービスの提供、スマホによるウォーキングイベント実施
		●休業災害件数	0件	1件	■ 安全TOP巡視、安全衛生防災委員会、安全朝礼の実施
S	⑧地域経済への貢献	●地域活性化事業の展開	事業化	実証実験 設備仕様 工事内容の整合	■ 循環型農業(ウナギとイチゴ)の実証実験の継続推進 ■ 旧時小学校への設備導入に向けた設備仕様・工事内容の整合 ■ 旧時小学校でのBMX屋内練習場オープンにスポンサーとして協力 ■ フードドライブの実施、グリーン活動の実施
G	⑨コーポレートガバナンス の強化	●コーポレートガバナンス・コード 遵守率	100%	100%	■ 社外取締役ミーティングの推進 ■ PBR各分解指標と中長期経営計画との連動について情報開示

2025年3月期中間の主な取り組み

廃校利用

自転車競技BMXの
屋内練習場がオープン

『SAPEur BMX PARK時』

今年3月に廃校となった、
岐阜県大垣市 時小学校の
体育館を再利用プロBMXライダー
高木聖雄さんによる
自転車競技BMXの
屋内練習場が
10/5オープン！

J-MAXもスポンサーとして活動に協力

フードドライブ

家庭で余っている食品を
社内で集め寄贈昨年に引き続き、
家庭で余っている食品を
社内で集め、
フードバンクぎふ様に寄贈段ボール8箱(計60kg)
の食品を寄贈

食品ロスの削減・食糧支援の協力

地域交流

大垣市の学校へ
出張授業・工場見学大垣市養老高校にて
SDGs授業を実施大垣市主催の
『環境SDGsおおがき
未来創造事業』の取り組
みの一環で計3回実施上石津学園の皆さんが
本社工場に来社され
工場見学及び授業を実施SDGs・モノづくり・廃校利用
についてご紹介

SGDsの目的や重要性の周知

地域貢献に繋がる様々な取り組みを実施

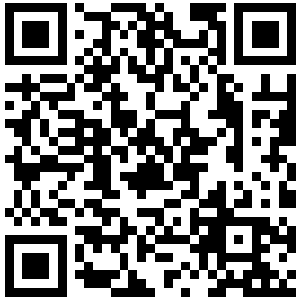
ご清聴ありがとうございました

技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

▼ WEBSITE

 HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



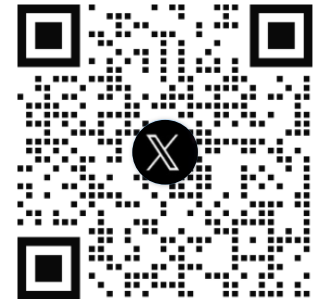
▼ OFFICIAL SNS

 YouTube ▶ @J-MAX3422



▼ OFFICIAL SNS

 X(旧Twitter) ▶ @J_MAX3422



この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

